

令和 7 年度 日本血液事業学会事業報告

◎会員数 令和 7 年 4 月 1 日 現在

A 会員	<u>6,231</u> 名
B 会員	<u>43</u> 名
合 計	<u>6,274</u> 名

◎学会機関誌「血液事業」の発行

第 48 巻第 1 号 2025 年 5 月	6,496 部
第 48 巻第 2 号 2025 年 9 月	6,637 部 (抄録集)
第 48 巻第 3 号 2026 年 1 月	<u>6,484</u> 部
第 48 巻第 4 号 2026 年 2 月	<u>6,475</u> 部
合 計	<u>26,092</u> 部

(3) 第 49 回日本血液事業学会総会概要

総会事務局 日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター

第 49 回日本血液事業学会総会を令和 7 年 10 月 28 日から 30 日にかけて、さいたま市ソニックシティで開催いたしました。

現地開催を基本としつつ特別企画、特別講演、教育講演を開催した会場では Web ライブ配信も行いました。

昨今の不安定な社会状況の中で、安定した血液事業を行うためには、社会・国民により一層深く血液事業をご理解していただくことが求められます。そのため、総会テーマを「社会とともに一歩み続ける血液事業」としました。

また、総会テーマに従い、久しく行われていなかった市民公開講座を設けることにしました。

これを含め選定した演題の概要は以下のとおりです。

【特別企画】

特別企画 1：ブロック血液センター所長推薦優秀演題

大学献血におけるラブラッドを活用した複数回献血者増加の取り組みについて

尾西 桃香（北海道赤十字血液センター）
若年層献血促進の一助としての高校献血
—高校生の意識・経験から見える課題と可能性—
柳沼 佳代（福島県赤十字血液センター）
移動採血依頼要請の最適化を目指したビジネス向け意思決定支援ツール
「Power BI」の活用
原山 愛（長野県赤十字血液センター）
若年層の献血理解を深める看護師参加型セミナーの効果
駒田 皇（愛知県赤十字血液センター）
荷物持ち上げ計算式（NLE）を用いた腰痛対策
〈職員が健康で働き続けることができる職場作りの構築に向けて〉
松永 一真（奈良県赤十字血液センター）
中四国ブロックにおける若年初回献血者の献血動向
—献血継続・再来におけるラブラッド入会の有効性—
大内 菜央（日本赤十字社中四国ブロック血液センター）
トランシーバーを活用した献血会場における大型車両後進時の誘導法
山崎 克範（佐賀県赤十字血液センター）

特別企画2：改善活動血液事業本部長賞候補演題

長日勤と短日勤の導入によるフレキシブルワークでの働き方改革
森安 龍一（鳥取県赤十字血液センター）
衛生委員会だよりを活用した職場環境改善
清水 帆奈（福井県赤十字血液センター）〔特別賞（優秀アイディア賞）〕
高校献血への献血WEBサービス「ラブラッド」の導入
～高校献血特化版アプリガイド等の作成～
沼川 真葵（熊本県赤十字血液センター）〔改善活動血液事業本部長賞〕
若手総合事務職の成長を支える地域血液センターの研修プログラムについて
古東 辰哉（兵庫県赤十字血液センター）
『いざ！病院受診！』～病院受診対応はワタシにお任せ！～
西川 温子（栃木県赤十字血液センター）
Power BI を用いた診療科別赤血球製剤使用量モニタリングの現状報告
赤石 好絵（日本赤十字社北海道ブロック血液センター）
暴言・暴力等の迷惑行為におよぶ献血者対応訓練の実施
蔭山 智彦（神奈川県赤十字血液センター）
固定施設における若年層推進強化と全血採血数向上
—学生ボランティアの自己効力感向上を基にした推進活動—

保科 美有（山形県赤十字血液センター）〔特別賞（継続発展賞）〕

特別企画3：昭和天皇記念血液事業基金学術賞受賞記念講演

von Willebrand 病と TTP：共に歩んだ半世紀の血栓止血療法の移りかわり

藤村 吉博（奈良県立大学名誉教授/日本赤十字社近畿ブロック血液センター）

特別企画4：血液事業本部からのメッセージ

血液事業の将来設計—20年後を見つめて—

紀野 修一（日本赤十字社血液事業本部）

【特別講演】

特別講演1：鉄道のまち大宮と鉄道博物館

石田 亨（公益財団法人東日本鉄道文化財団鉄道博物館）

特別講演2：企業による持続可能な献血活動—Amazon Blood の取り組み—

鈴木マリアン（アマゾンジャパン合同会社）

林 瑚々路（アマゾンジャパン合同会社）

特別講演3：血液事業におけるビッグデータ解析の重要性

：大規模ゲノム解析研究の視点から

徳永 勝士（国立健康危機管理研究機構国立国際医療研究所）

特別講演4：日本赤十字の救援・救護活動

丸山 嘉一（日本赤十字看護大学附属災害救護研究所/佐々総合病院）

特別講演5：データで見る医療現場の生成 AI の活用

：米国での先端事例と日本での導入課題

水野 敬志（ファストドクター株式会社）

特別講演6：骨髄由来間葉系幹細胞による急性 GVHD 治療

—テムセル HS 注の開発史—

杉原 圭亮（JCR ファーマ株式会社メディカルアフェアーズユニット）

【教育講演】

教育講演1：医学教育における血液センターの役割

澤村 佳宏（日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター）

教育講演2：血液センター連盟の歴史

中島 一格（日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター）

教育講演3：泌尿器科領域におけるロボット支援手術と輸血療法

久米 春喜（東京大学医学部附属病院泌尿器外科）

教育講演4：TTP 治療で血漿交換は必要なくなるか？

松本 雅則（奈良県立医科大学血液内科・輸血部）

教育講演 5：医療におけるヒューマンエラーと安全管理

山本 知孝（東京大学医学部附属病院医療評価・安全部）

教育講演 6：TRALI 及び TACO について

岡崎 仁（日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所）

教育講演 7：看護の将来ビジョン 2040～看護職の将来～

浅香 えみ子（公益社団法人日本看護協会）

教育講演 8：臨床検査技師として何が出来るか？

奥田 誠（日本赤十字社血液事業本部）

教育講演 9：CAR-T 細胞療法の基礎と最新動向

－作用機序から実臨床・将来展望まで－

藤原 慎一郎（自治医科大学附属病院輸血・細胞移植部）

教育講演 10：血管迷走神経反射（VVR）の予防策

難波 寛子（東京都赤十字血液センター）

教育講演 11：デジタル技術の活用とその人材育成

小山 洋一（日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター）

菊池 博也（北海道赤十字血液センター）

教育講演 12：赤血球の輸血検査（依頼検査を中心に）

常山 初江（日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター）

【市民公開講座】

講演 1：法令に基づき行われる血液事業

日野 郁生（日本赤十字社血液事業本部）

講演 2：献血協力事業所の事例について

古郡 栄一（古郡建設株式会社）

講演 3：ドナーから見た日米の献血体制の違い

佐藤 智彦（東京慈恵会医科大学附属病院輸血・細胞治療部）

講演 4：輸血を受けた経験～繋がれた命～

友寄 蓮（彩の国けんけつ大使）

【シンポジウム】

シンポジウム 1：「Quality Culture の醸成－全国の血液センターに向けて－」のテーマで 4 題

シンポジウム 2：「科学的・合理的根拠に基づく血液事業」のテーマで 4 題

シンポジウム 3：「ドナーによりそう血液事業」のテーマで 4 題

シンポジウム 4：「新型コロナウイルスは我々に何をもたらしたのか」のテーマで 4 題

シンポジウム 5：「臍帯血と再生医療」のテーマで 5 題

シンポジウム 6 : 「自然災害への対応ー地震、台風、大雪ー」のテーマで 4 題

シンポジウム 7 : 「細菌スクリーニング導入後の現状と課題」のテーマで 4 題

【ワークショップ】

ワークショップ 1 : 「ボランティアの育成」のテーマで 4 題

ワークショップ 2 : 「効果的な MR 活動ー将来の展望ー」のテーマで 4 題

ワークショップ 3 : 「看護師の確保と育成」のテーマで 4 題

ワークショップ 4 : 「造血幹細胞事業の普及啓発」のテーマで 4 題

ワークショップ 5 : 「血液センターにおける薬剤師の役割（日赤薬剤師会共同開催）
ー薬剤師のキャリアパスと医薬品営業所管理者教育を考えるー」
のテーマで 4 題

ワークショップ 6 : 「データドリブンプロジェクト（第 2 報）」のテーマで 7 題

ワークショップ 7 : 「職場の安全対策」のテーマで 4 題

一般演題は口演 146 題、ポスター 81 題の発表がなされました。

一般演題で、栃木県と福島県の高校生（非会員）による献血推進に関する発表と医学部学生（非会員）による献血教育と国際交流に関する発表を受け入れました。

参加者は現地参加 950 名、Web 参加を含めた総参加者は 1,058 名でした。

市民公開講座は来場者 171 名とオンライン視聴者 50 名でした。

また、共催セミナー 11 社（9 セミナー）、展示 34 社、広告 31 社、寄付は個人 1 名と 29 社の協賛をいただきました。

今回の総会「社会とともに一歩み続ける血液事業ー」の内容が、今後、皆様が業務を行っていくうえで、何かしらのお役にたてれば幸いです。

参加者の皆様、協賛いただいた個人、企業の皆様、運営にあたられた株式会社メッド様、会場を提供頂きました公益財団法人埼玉県産業文化センター（ソニックシティ）様、ご支援を頂きました日赤振興会様、日赤サービス様、そして血液事業本部様、関東甲信越ブロック内の各血液センターの職員の皆様に感謝申し上げます。